ジョージ

Ｇ・アダムスキー通信

＜第１１１号＞

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、Ｇ・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒 頭 語

エゴとは何でしょうか？　一般的には、自我とか自己と解釈されています。アダムスキーが言っているエゴとは、利己主義に近いイメージがありますが実際は違うようです。

一般的にエゴという場合は、自分を持っていることであり自我の確立は重要なこととなります。そこからプライド（誇り）が生まれ、それ自体は問題となりません。それらを固持するあるいは、妥協しないということが問題となるようです。それも時と場合によって、超一流のスポーツマンや政治家などは、それで大成することもあります。

このように、一般的にエゴという場合は、決して悪い事ばかりではありません。しかし、エゴにしてもエゴイズムにしても、人間の心の一部を意味していて狭い範囲の状況を言っています。アダムスキーの言っているエゴとは、四つの感覚器官である視覚、聴覚、嗅覚、味覚により形成された心を指しています。この四官は、それぞれ異なる能力を有していて、共通するところがありません。従って、それぞれの器官の好き嫌いにより独立した自我を持つようになります。

つまり、それぞれの器官の好ましい事のみを求めるようになり、他の器官を尊敬せず調和しようとしないのです。これがアダムスキーの言うエゴであり、人間の心を形成することとなります。その心（エゴ）は、頼れるのは自分だけとなって、目先のことに左右され常に不安な思いにさらされます。その結果、人間同士が対立し、戦争と破壊の繰り返しとなるのです。これでは、成長し発展するような、安定した未来を築くことはできません。

では、どうすればよいのか？　まず、このような心（エゴ）を自分は持っているのだと自覚すること。そのうえで、正道を求めていくしかありません。具体的には、アダムスキーや仏陀が伝えたように四官をコントロールするということです。そのうえで、心（エゴ）が本来頼るべき指針である〝宇宙の意識〟を自覚し、それに従っていくということです。

このこと、つまりエゴの自覚とそれをコントロールするということ、そして宇宙の指針を見出すことが、アダムスキーが伝えた要諦であり地球人に明示された光明であると思います。

“言葉に注目”

＜ それは純粋な錫（すず）であり地球上ではごく微量が知られている・・・ ＞

『 Ｕ Ｆ Ｏ の 謎 』　　Ｇ・アダムスキー著　中央アート出版社

これは、円盤から落とされた物質についての報告です。１９５３年にブラジルのカンビナスに落下して溶けた金属の話があり、それは、円盤からのものだという。「数機の円盤がその町の上空に全市民の眼前で停止していた。まん中の一機が故障しているようだった」。これと同様な事件が、ワシントン州のタコマで発生し、ここでも故障機が融解した金属を落としたということです。数ポンドの金属が街路や歩道に落下して輝く金属に凝固してしまったという。

この金属をブラジルのある研究所とアメリカの一科学者の両方によって分析され、それが純粋な錫（マグネシウムという話もあるようです）とされているようです。これを作り出した技術が、この地球上のものではないことは明らかだと、アダムスキーは言っています。

「生命の科学」学習のポイントPart１１１

今回は、レクチャー１２「たえまなき進歩の報い」の『本講座の要約』です。

この前段に、確認事項のような部分があります。そこに第１１講について、「あなたへやってくるもろもろの啓示は過去のあなたの一部であるのでそれを無視しないようにと警告しました。」と書いています。そして、それはきわめて重要だというのです。その理由は、「人生は〝はめ絵〟パズルのようなもので、あなたが完全な絵を望むならばどの部分も無視できないからです。」としています。そして、人間は好き嫌いの生活をしてきているので、一部分を代用するようなことをしがちですが、これらにうち勝たなければならないと言っています。

そして、善とか悪とか興味を持てないというのは、理解力の欠乏による法則の誤用であると語ります。しかし、その過失により学ぶのであると伝えています。人間は、物事を分析する権利を持っているものの、非難してはいけないと注意します。分析に過失があったならば、素直に認めることを促しています。次に、講座についての要約となります。

第１講では、生命の分析と因を知覚すること、物事の因果関係に気づくこと、そして感知力を増すよう努力すること。第２講では、心が外界の諸現象に惑わされないこと、他の万物の働きの驚異を感知すること。第３講では、宇宙の法則が万物の中で働いていることを見ること。第４講では、万物が相互に関連し合っていることを観察すること。第５講では、英知と生命力は意識から来ること。第６講では、肉体を若返るには心を若返らせること、新しい物に関心を持つこと。第７講では、宇宙の記憶と記憶の重要性について心だけでは記憶を保てないこと。第８講では、人間の分離感は知識の欠乏による。第９講では、宇宙的細胞と物欲細胞に関すること。第 10 講では、意識による旅行について。第 11 講では、宇宙空間の探険について。第 12 講が、本講になります。今回は、要約部分なので解釈より概要のようになりました。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編１１１＞

〝学者の取った天下なし〟

学者は学問のうえでは政治や国家について理想を論じても、実際の世の中のことはよくわかっていないから、政権を握り、政治を行うことはできないという皮肉です。しかし、学者の多くは、世俗を離れた理想を語るもので、そのところは、良い点でもあると思います。

Q&A

Q：国際アダムスキー普及会の狙いは？　　※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：G・アダムスキーから伝えられた教えを正しく理解し継承すること、そして出来れば普及することにあります。また、新たな情報がない中で、アダムスキーの正当性を伝え続け、出来ればアダムスキー支持者を減らさないことにあります。これらは、なかなか困難な活動です。

書物紹介

『宇宙を超える地球人の使命と可能性』　木内鶴彦 著　KK ロングセラーズ

木内氏は、３度臨死体験をしたことで知られ、その時、意識体の中で自己を失わないようにしながら様々なことを経験しました。その経験から色々な発見や発明をしています。それらが書かれていて、日本の歴史探訪を初め太古の水の開発や国際特許の太陽光発電システムなど大変な活躍です。透視の様子や意識に対する考え方など、アダムスキーの片りんを感じます。とはいえ、いくつか疑義もありますが、意識界と人間を考えるうえでは良書であると思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆　2025 年 5 月 10 日（土）、8 月 23 日（土）、11 月 2 日（日）午後 1 時 30 分より台東区民会館第１会議室または特別会議室小。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

毎回のことながら、多忙の中、完成してホッとしています。どうも色々な役を仰せつかり、多忙となっているのが良し悪しのようです。

ＵＲＬ：http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信　＜第１１１号＞

発 行 日　令和 ７ 年 ５ 月１０日
編集発行　国際アダムスキー普及会
　　栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任　渡 邉 克 明　（禁無断転載）